

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成22年5月31日現在

研究種目：若手研究(B)
研究期間：2007～2009
課題番号：19730320
研究課題名(和文) インタンジブルズ管理に向けて管理会計が果たす役割と実態
研究課題名(英文) The Role and Reality of Management Accounting for Intangibles Management
研究代表者
木村 麻子(KIMURA ASAKO)
関西大学・商学部・准教授
研究者番号：30389233

研究成果の概要(和文)：

イノベーションやブランドなどの見えざる資産(=インタンジブルズ)を企業が管理する過程の中で、管理会計がどのような役割を果たすかを論じている。インタンジブルズ管理のサイクルについてプロセス・マネジメントの概念を導入することの必要性を検討した。また、インタンジブルズ管理が企業価値の向上につながると位置づけ、研究開発活動やブランドの管理について、管理会計の視点から論じた。ブランドについては、企業の戦略や行動計画に基づいてその価値を算定することで、戦略マップの顧客の視点において全社的に共有する指標として利用可能であると結論付けた。

研究成果の概要(英文)：

This study intended to bring out the role of management accounting that company manages intangibles as innovation, brand and so on. I discuss about the need introducing to intangibles management cycle for process management. This study treats Intangibles management as contributing to corporate evaluation and considers innovation and brand in management accounting context. For example, brand value budgeting is useful to intangibles management.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 800,000 | 0 | 800,000 |
| 2008年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2009年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,000,000 | 360,000 | 2,360,000 |

研究分野：管理会計

科研費の分科・細目：会計

キーワード：インタンジブルズ プロセス・マネジメント

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、会計の領域においてインタンジブルズを積極的に議論の対象とすることは多くなかった。とくに、管理会計の視点からインタンジブルズの管理について体系的に論じることはほとんどなかった。

(2) 実証研究の多くが企業価値とインタンジブルズの価値関連性を認めている。実務において企業のイノベーション力やブランド等のインタンジブルズが企業価値を高めるための資源であり、その管理を重要な課題として捉えられている。

(3) インタンジブルズの一部について管理会計の視点から研究したものはわずかではあるが存在する。西村優子[2001]『研究開発戦略の会計情報』（白桃書房）では、研究開発投資の効率性を探るべく、実証モデルに関する欧米の文献をサーベイし、財務諸表情報を用いて分析を行っている。また、諸藤裕美[2004]「研究開発活動における業績評価・報酬システムに関する考察」『会計』第166巻、第3号では、研究開発活動に関する業績評価・報酬システムについて、文献サーベイを行っている。このように、インタンジブルズの構成要素（知識、ブランド、知的財産等）の管理に関連する、た

とえば研究開発という側面に基づいた研究が蓄積されている。つまり、インタンジブルズに関連する研究は既存であるが、管理会計の視点からのインタンジブルズ研究はまだ十分とはいえない状況であった。

2. 研究の目的

(1) 管理会計は、企業の経営管理に有用な会計情報を提供するものでなければならない。その意味で、インタンジブルズが企業の経営管理の対象であるならば、管理会計はインタンジブルズ管理に向けてどのような役割を果たしうるのかを検討する必要がある。本研究は、管理会計がインタンジブルズ管理に貢献する可能性について、理論と実態の両面から探求するものである。

(2) とくに、研究開発などのインタンジブルズの構成要素の一部だけでなく、インタンジブルズ全体について体系的に検討することを目的としている。ただし、手掛かりとして研究開発などの構成要素を個別に考察の対象とする。

3. 研究の方法

(1) 当初の予定では、インタビュー実績のある企業において、インタンジブルズ管理、とくに研究開発活動についての実態調査を行う予定で

あった。けれども、先方の担当者の異動等に伴い、予定していた調査を行うことが難しくなった。そのため、研究の方法としては、実態調査から文献サーベイへと変更した。

4. 研究成果

(1) インタングブルズ管理について、とくにプロセス・マネジメントに視点を導入する必要性について論じた。プロセス・マネジメントの視点を導入することで、インタングブルズについての職能横断的な交流が生まれ、円滑にインタングブルズの管理が行われると結論付けた。

(2) インタングブルズのなかでもブランド価値について論じた。ブランド価値を戦略マップの顧客の視点に位置づける指標として利用する可能性について論じた。ブランド価値の算定方法としては、インターブランド社のブランド価値評価法を用い、企業の戦略や行動計画等を反映させるとした。ブランド価値の算定方法を明示し、戦略等を反映させることで、全社的に共有可能な目標値として利用可能であると位置づけた。

(3) アジア太平洋管理会計学会 (Asia-Pacific Management Accounting Association) での報告 (タイ王国) を予定していたが、現地の空港が占拠されたことから渡航困難となり、また当該年度の学会自体がキャンセルされたため、当初

予定していた海外での報告ができなかった。今後、また海外報告の機会を積極的に得たい。

(4) 調査先企業の都合で、予定していた実態調査が行えなかった。そのため、文献サーベイを主体とした研究に変更せざるをえなかった。文献研究から、本研究の目的であった、インタングブルズ管理に向けた管理会計の役割についての考察は一定の成果を得た。けれども、本研究のもう一つの目的であった、インタングブルズ管理に管理会計がどのような貢献をしているかについての実態を明らかにすることはできなかった。今後、研究開発部門等へのインタビュー調査を行える企業を探したい。インタビュー調査が困難である場合には、アンケート調査を行いたい。

(5) 文献サーベイからインタングブルズのなかでもとくに研究開発とブランドについて一定の成果を得た。けれども、上記以外のインタングブルズ (知的財産など) についての研究はまだ進められていない。そのため、知的財産などの領域についても研究対象を広げたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 木村麻子、ブランド・マネジメントに向けた管理会計の貢献の可能

性：ブランド価値予算管理を中心に、日本会計研究学会スタディ・グループ最終報告書、査読無、2010年9月発行予定

- ② 木村麻子、管理会計におけるプロセス・マネジメントの重要性－インタangible管理を中心に、商2008年 経論叢(九州産業大学)、査読無、第48巻第3号、23－41

[学会発表] (計2件)

- ① 木村麻子、インタangible管理に向けた管理会計の役割の検討、日本会計研究学会第68回大会、2009年9月4日、関西学院大学
- ② 木村麻子、インタangible管理における指標間因果関係の重要性、第25回日本管理会計学会九州部会、2008年7月26日、福岡大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 麻子 (KIMURA ASAKO)
関西大学・商学部・木村麻子
研究者番号：30389233